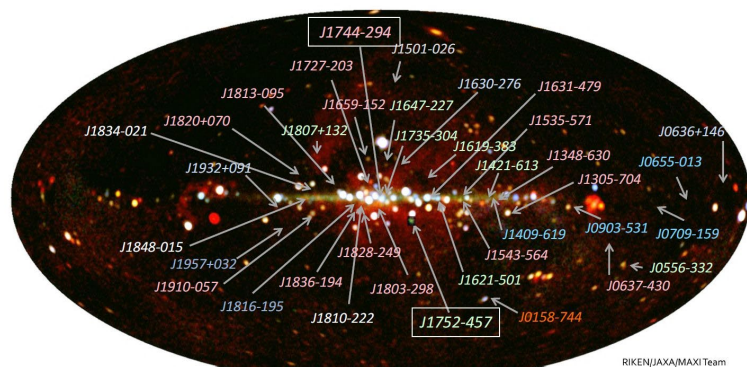


【PFの目的】

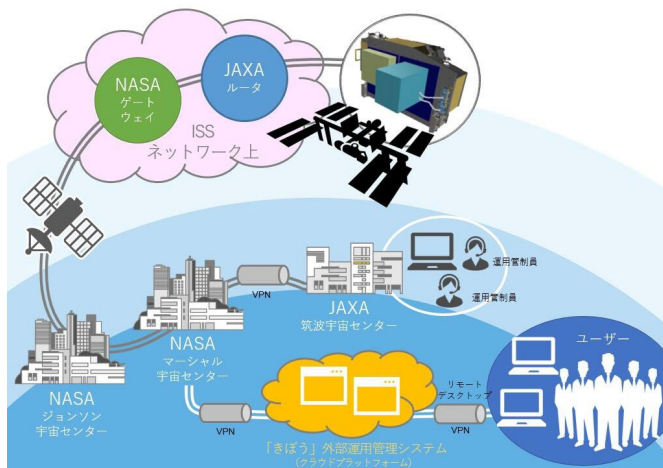
「きぼう」だけが持つ大型の船外実験プラットフォームをフルに活用し、

- ① インパクトの高い科学的成果の創出
- ② 小型・中型の実験ミッション実施を通じた技術実証機会の拡大
- ③ 商業利用の活性化を目指す。



Total 37 : 15 black holes, 18?(-1) neutron stars, 1 white dwarf and 3 (+1) unknown.
(NS: 12? LMXB, 3 pulsar, 2 AMSP (+J0911), 1(+1) HMXBs)

MAXIが発見した37個の新星。
うちブラックホールが15個



「きぼう」船外ミッション
外部運用管理システム稼働



JAXAと日立造船
との共同研究：
世界初、宇宙での
全固体リチウムイ
オン電池の充放電
機能を確認

【達成状況】

- ① MAXI、CALETはそれぞれ15年以上、10年以上の観測を行っており、その成果はNature、Science、Physical Review Lettersなどインパクトファクターの大きな科学雑誌に多数掲載されている。
- ② 複数の小型・中型実験を経てiSEEP/SPySEの開発を行い、i-SEEP利用サービス提供事業として民間事業者への事業移管を行った。これまでに高秘匿光通信、全固体電池、独自通信規格による信号受信、各種宇宙機器の実証など、数多くの実証実験が実施されている。ユーザの利便性向上のため、筑波宇宙センター外から運用可能な外部運用管理システムを整備した。
- ③ SonySCLやNICT、スカパーJSAT、米国SpaceBilt社、スペインSatlantis社などが有償利用している。JAXAとりまとめ分を含めると計50前後の団体がこれまで有償で参画。i-SEEP利用を事業移管することにより、宇宙利用のすそ野が広がった。